

友愛こうら

第100号 発行：甲良町老人クラブ連合会
水と緑に恵まれた、歴史豊かな、この郷土を愛し、
たがいに友情の手で結ばれた老人クラブをめざそう

会員の増強と組織や活動の活性化をめざす 歴史と伝統がある 甲良町老人クラブ連合会(友愛こうら 100号記念)

ここに本年度と過去2年の甲良町老人クラブ連合会の年齢層別会員数をまとめました。

年代別 性別	60歳~64歳		65歳~69歳		70歳~74歳		75歳~79歳		80歳~84歳		85歳~89歳		90歳~94歳		95歳~99歳		100歳~		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
令和 2年度	27	14	123	128	133	153	127	128	70	118	44	108	23	52	2	15		4	549	720
	41		251		286		255		188		152		75		17		4		1269	
令和 3年度	23	18	115	98	140	165	112	117	76	109	51	112	20	59	7	16		6	548	699
	41		213		305		229		185		163		79		23		6		1247	
令和 4年度	9	5	118	92	122	161	129	124	76	111	52	113	26	54	4	18		7	536	685
	14		210		283		253		187		165		80		22		7		1221	

コロナ感染症が流行・拡大で、令和二年度からほとんどどの事業・行事は自粛、中止となり、老人クラブの組織化にまで大きな影響を与えています。会員数は令和年度に入って減少し、加入率も低下していきましました。

◆入会者の減少
令和四年度、一番に気がつくのが60歳から64歳までの会員数の激減です。多くは数え年65歳が加入年齢になっていて全員加入を原則にしていたものが崩れてきていると思われます。数え年65歳は統計上老人・高齢者ではありません。しかし、数え年65歳からの入会で、会員数は高齢者数を上回り、加入率が100%を超える字が多くあります。それが平成の終わりがごろからだんだん減り、本年度はなくなりました。

入会を拒否される原因について、まずは、考えなければなりません。確かに人生百歳時代と言われ、老人ということに抵抗もあり、老人クラブに参加しなくても人生を楽しみ仕事をすることに生甲斐をもって元気に暮らしておられると思います。しかし、そのあと、適宜入会されることはどの程度あるのでしょうか。おそらくよほどおすすめしていかなければ入会ということにはならないのが現状であると思われます。こうした入会者の減少を課題としてその対策を具体化していかなければなりません。

価値観が様々で、多様な生き方の人をまとめていくのは難しいことです。老人クラブの活動に賛同してくださる人を核にしなが、過年度の未入会者にもお誘いをかけていくことを繰り返して、活動のよさやおもしろさが伝わるような取り組みをみんなですて、さらに、「ポンと肩押し」を続けていってほしいと思います。そして、字と連合会をつなぎ、誇りとする全字加入の連合会を継続させていきたいと思ひます。

令和元年度末からのコロナ感染症の蔓延拡大は、本年度入会にも影響していると思ひ

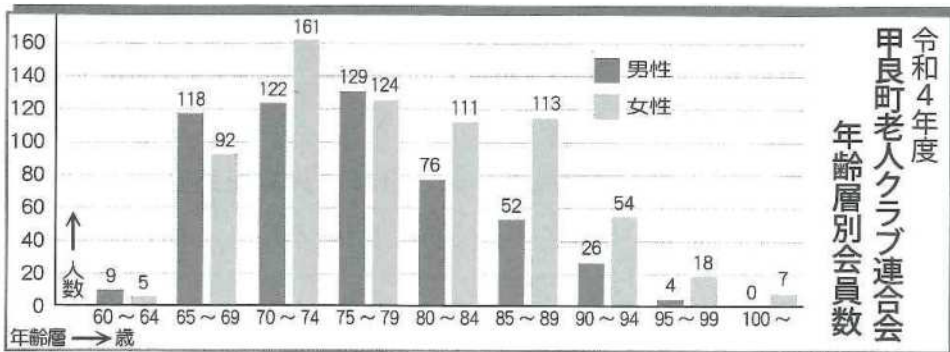
ます、字も連合会も行事をしないまま日が過ぎ去っていきました。そのため、老人クラブへの理解も難しくなってきたているのは確かであります。

◆中途退会者の増加とその対応

65歳から69歳までの会員数の減少も大きくなりました。これは役員を選任に関わっているという字があります。

役員は、年齢の順番に回っていく、選挙であっても役にあたる年齢になってくる。そのようなことから退会者が出てきて、それが広がっていく。選挙でも順番でも、もう男性女性という枠を外していくことも考えたいが、そうはいかない。

この課題にも対処していかなければなりません。そして、入会のお誘いを過年度の非加入者の方にも毎年していき、途中からはなかなか入りにくいと思われるので、丁寧に何度もおさそいをしていきたいものです。また、字の役員の選出にも考えて、役職にある者だけの課題とするのではなく、全会員の課題として取り組み、活動をしてほしいと思います。



◆乗り越えたいと願う年齢は？
健康寿命も平均寿命も伸ばし、その幅を狭めたい。棒グラフを見ると、男性も女性も山型の分布になっているとはいえ、男女で差異があります。

・男性は70代後半から80代前半に大差があります。
・女性は80台後半から90代前半で、人数が半減しています。
『男性は、80歳が壁』、『女性は、90歳が壁』になっているようです。
そのためには、健康保持・健康づくりをどのように進めていけばよいかを高齢期になる前から考え、取り組んでいかなければならないと思われれます。入会から15年で80歳、25年で90歳、健康第一を考え活動していく老人クラブの取り組みや各種機関の連携での事業への参加を考え、運動や生活をみつめていかなければならないと思われれます。そして、健康寿命を延ばしていくことに意図的に取り組んでほしいです。年間2回ですが、グラウンドゴルフ大会やニューズポーツの大会にも、積極的な参加を各字で講じたり、運動経験の場を積極的につくっていくようお願いします。
※介護や暮らしの状況については省略します。

女性委員会の具体的な活動が始まる
女性委員会の開催

- 第二回(七月二日・金)
- 第三回(九月 九日・金)
- 第四回(十月一四日・金)

甲良町老人クラブ連合会では、平成二七年度に女性委員会が組織されました。会則にも位置付けられ、連合会役員になりました。しかし、その具体的な活動を理解することまでは出来ていませんでした。そして、ほとんどの人が毎年交代で、そこにコロナ禍のため二年間の行事空白で活動はストップしていました。

そこで、今年度は、まず、『女性委員会って 何をするのか』をわかるようにして、具体的な活動を次の三点にまとめ取り組むことになりました。

- ①連合会等の委員会や研修会・大会などには、練り合わせ参加する。役職でなければ参加できない行事などもあり、参加して自分自身を充実させる。
- ②各字での用務はだいいじで、字と老ク連との連携を密にして、字や連合会行事に多くの参加者で楽しめるように、会員さんの参加のお誘いをして一緒に参加する。

③楽しみながら、皆さんに喜んでもらえるものの制作を受けもつ。

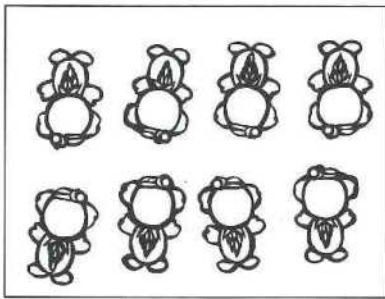
特に③は、しごと(活動を女性委員さんと交流しながらすすめ、会員のみなさんともその制作されたものでつながり、甲良町老ク連の記念になるものにしていくことを考え、取り組みが始まりました。

甲良町老ク連の記念になるものの制作



甲良町キャラクター
ココラちゃんの
切り絵入り葉づくり

老ク連の大会や研修会等に参加すると、その記念になるような手作りの小さなものが関係の袋に入れられています。甲良町老ク連には、そのようなものはありません。令和の時代に入って、ココラちゃんの切



〈原画〉

り絵入り葉を本部役員でつくり、ご長寿お祝いの言葉にそえて贈りました。とつても喜ばれました。こうした甲良町老ク連の記念品の制作を担当していただくことにしました。

必要な用具材料も整え、丁寧な説明後、制作にかかりました。

カッターナイフで原画にそって切るという一見簡単そうにみえる作業(しごと)ですが、細かい部分の切り取りには予想外に手こずったり、力の入れ具合やカッターの向きや切れ味なども、初めての方には、なかなか難しいことでした。しかし、一時間足らずで何枚もつくられた方もおられました。辛抱して頑張ってくださいなさるなあと、思う姿も見



こうして切り取った後は色付けなどをして仕上げていきますが、それぞれの作業内容を考えて行います。すでに第三回が終わった時には、二〇〇枚近くつくられ、頑張っ



受けられました。自分も楽しみながらというものの、そのようになるには、今後さらに考えていかなければならないと思いました。

この日は制作途中で終わりました。続きは家でしていただき、次回へと活動を続けてい



初めての作業で、本当に困ってくださった方もあり、また、身体機能が弱まっているのは当然です。活動内容を考えていきたいと思えます。

● 難しくかったです。でも、楽しくできました。

● 目の悪いものにとつては大変です。

● カッターを使い慣れていないので難しかったです。が、……。

また、細かな仕事ですが、また、初めてで大変でしたが、……😊

いてくださいました。

この活動が、年度が変わり、人が代わっても女性委員の活動・リーダー養成の活動として受け継いでいってほしいと願っています。

毎回活動後、感想やご意見をひとこと書いていただき、第二回の一部を紹介します。そして、だいにこれからの活動に生かしていきます。



● 昔から不器用でしたが、あらためて自分の不器用さを感じさせられました。皆様にお渡しするとのことですが、私のを受け取る人は気の毒な気がします。没にしてください。結構ですよ。

● 没なんてとんでもないことです。みんなそれぞれに味のある作品になっていてうれしいです。生の声を聞かせていただきありがたいです。

● 久しぶりの工作、少し肩は凝りましたが、一つのこと集中して無になりました。いつもバタバタしていますので、自分だけの時間で、ちょっとほっこりしました。いろいろいいねいな準備、ありがとうございました。お世話様でした。

肩は凝ったけど……無になり……ほっこりしました……とても感激しています。



〈Hさんの作品〉

会員の皆様には、温かいご理解をいただき、協力をよろしく願います。

● 『女性委員会とは?』少し理解できました。

初めて、こんな言葉を聞かせていただき、うれしいです。長い歴史の上につくられてきた組織の在り方や考え方などにも及んでいくことでもあり、活動で役割を示して、会員の皆様にもわかるようにしていきたいです。

切りとつたものを、自分で色付けや装飾をして優雅にリボンをうちわであしらってつくってくださった方がありました。びっくりです。どんどん発想を広げて作品づくりをしていただいているものを見せたいと思いました。どうぞ自分でも自由にお楽しみいただきたいと思えます。

甲良町老々連 生活文化クラブ活動 珍しいものづくり体験

初秋の京都で 京染手描き友禅と 優雅に京料理を楽しむ

やっと、開催することができました！そして、無事に終わりました。

お誘いしたら、Uさんは『やってくれるのを 待っていました』という返事。

二五名の参加で、九月二六日(月)、コロナ禍の中での行事となりましたが、事細かに実施計画細案をつくり、実施しました。
ものづくり体験

京染め手描き友禅

『友禅(ゆうぜん)』とは、布に模様を染める技法のひとつ。日本の代表的な染色法である。でんぶん質の防染剤を用いる手描きの染色法である」と、説明されていました。「京友禅」「加賀友禅」そして、「友禅流し」などの言葉は聞いていました。また、京都鴨川や金沢の浅野川・犀川の友禅流しを写真などで見てはいましたが、何も知りませんでした。今回は、トートバッグに染めていく活動で、塗り絵感覚で楽しめるといわれ

ますが、塗り絵ではありませんし、驚きでした。

早速うすい布製のトートバッグに描かれ絵型・型紙を選び、8色の染料を使って、色付け・染める活動に入りました。色見本を見ながら、皆さん慎重に筆を運ばれました。約一時間、熱中した作業が続き、鮮やかな『色付け』友禅ぞめ』のトートバッグが出来上がりました。本誌は、カラー印刷ではないのでその美しさを伝えることができませんが、バッグとして使うのがもったいないくらい



〈制作風景〉

いです。また、機会を見て展示させていただきます。

ちよつとりツチなお食事・ランチ 『京料理盛り込み膳 湯豆腐 舞』

ご昼食は私たちだけの団体のお食事場所にしたいため、準備に少し時間がかかりました。字ごとに席の配置をして、少し狭いかなあとと思われるくらいのお料理が並べられていきました。そして、一二時からお食事が始まりました。

多くのメニューから、「京料理盛り込み膳 湯とうふ 舞」をオーダーしていました。

食前酒で、静かに『乾杯』をして、ゆつくり、お食事が始まりました。盛りだくさんのお料理で、あとのアンケートでも量が多かったやおいしかったという声を多く寄せられていました。でも、もう少し広い場所

でさらに美しく演出されるという素敵なあといろいろ



意見もありました。ゆつくりと京料理を楽しみました。これもカラーでご紹介できないのが残念です。

京土産も買い込み、東山「高台寺」へと向かいました。

ちよつぱり見聞を広めよう

『高台寺参拝・散策』

秀吉とねねの寺で知られる当院は、京都東山観光のコース・スポットになっています。真夏のような暑さになりましたが、参拝・散策路には木漏れ日がさしているようで、人も少なく、ゆつたりと境内をまわりました。

高台寺は、豊臣秀吉の正室である北政所が秀吉の冥福を祈るために建立した寺院です。寺号は、北政所の落飾(仏門に入る)後の院号である高台院にちなんでつけられています。禅宗寺院であるとともに、秀吉と北政所を祀る霊廟としての性格を持った寺院です。

「ねねの道」とか「だいどころ坂」というのがあり、観光コースになつていようです。きれいに整えられた参拝・散策の路、途中のお茶室に掲げられている掛け軸やお花。ねねの秀吉

へのおもいが、でているかのようでした。

久しぶりのバスに乗ってのお出かけで、皆さんとっても喜んでくださったのが、アンケートでも伝わってきました。

コロナとうまく付き合い、高齢者の取り組みとしての典型例も示せたのではないかと、喜んでいきます。お疲れさまでした。

編集後記

「今年は、Aさん、見えてませんね」
「もう、来られんように、なりました」
今年だったら元気で行ったのに、来年は もう……。
人間誰もがそうかもしれませんが、高齢者にとっては、厳しい現実の言葉です。

コロナ禍の中にあってもうまく付き合っ事業をやっていきたくて思い構想しましたが、むずかしいでした。
友愛こうら100号企画もコロナに負けました。

コロナといえは、中止では、さみしいですね。

終息の日が一日でも早くなるように祈るものの、いつになるやら、そして、叶うのか……。でも、みなさん、元気で爽やかな秋を送り、冬を越しましょう。